特集4
産地リポート

～JAあきた湖東の産地紹介～「長期安定高品質リレー出荷を目指して」
エダマメ用青豆「青雫（あおしずく）」を栽培して

農事組合法人　つかまファーム
代表　伊藤　毅
ＪＡあきた湖東
農業振興課　小野義隆

生産農家：農事組合法人　つかまファーム
代表 伊藤毅氏（左側）
副代表 伊藤鬲氏（右側）

1.はじめに

ＪＡあきた湖東は秋田県の県都秋田市の北側に位置し、かつて日本第２位の面積を誇った八郎潟残存湖の東側に豊かな自然と広大な田園風景を有しております。

枝豆栽培は複合作物による農業所得の向上を目指して平成１６年より開始されております。当初枝豆の生産販売についてはごく少数の生産者が個選により地元市場に搬入しておりましたが、面積拡大と安定販売を図るため、枝豆栽培において最も労力と時間を要する脱莢・調整作業をＪＡ共同選果場にて作業を請負ながら対応しております。

共同選果場の効率稼働と安定販売を図るためにＪＡ指定による数品種の段播きと播種日程が生産者に示され集出荷計画が立てられております。平成１６年栽培開始時の１４ｈａから４０ｈａまで微量ながら面積の拡大も図られております。

2. 導入の経緯

７月中旬からの定期定量安定出荷を目標に極早生品種から随時収穫していく中において、８月お盆過ぎ（中下旬）に青豆の端境期を迎え、出荷量が不安定になることが課題となっておりました。京浜市場における秋田県産枝豆のイメージは青豆産地とのことであり、８月中下旬に安定生産可能な品種を模索していたところ、試験品種「ＳＢ１０１６（青雫）」の試験要請があり、管内における栽培適性を見ながら作付が開始されました。栽培者は管内の枝豆栽培の牽引組織である農事組合法人つかまファームにお願い致しました。つかまファームでは約５ｈａの枝豆が栽培されており、各品種との比較結果としては、コンパクトな草姿に対して分枝数が多く着莢率も高く、小ぶりな莢ではあるものの莢割れが少なく製品率が高くなる傾向で、結果的には収量性に優れると判断致しました。

草姿がコンパクトなため、脱莢作業性も良好で、食味も甘みが強く非常に良好であったため、生産現場、市場評価も高く８月中旬の有望品種として期待しております。

3.青雫の栽培概況

播種時期　５月１５日～５月３０日
栽　　培　通常露地栽培
　　株間２３㎝１.５粒播き
　　Ｎ：４～５ｋｇ／10a
収穫時期　８月中旬～下旬

4.青雫の今後の展望

冒頭述べたように７月中旬から１０月上旬までの秋田県における枝豆出荷期間において「サヤムスメ」（８月上旬）から「サヤニシキ」（８月下旬）、秋田県育種品種である「秋田さやか」（８月下旬）、「あきた香り五葉」（９月上旬）に移行する８月中旬の端境期を埋める品種として作付シェアの拡大に努めたいと考えております。

5.これからの枝豆栽培にあたって

今後の管内における枝豆生産としては、秋田県が掲げた枝豆産地確立に向けて、県内ＪＡの協調販売に微力ながら協力出来るよう安全安心はもとより消費者に選んで頂ける品質の高位安定に向けて、枝豆栽培イコール商品づくりとの意識を共有しながら生産者、関係機関一体となった取り組みにより一層励んで行きたいと考えております。

▲つかまファームを含めた７経営体が個別に機械を取得し、脱莢、調整作業を行っている

▲全県協調体制「オール秋田」での販売を目的として秋田県統一出荷袋を使用

▲JAあきた湖東の皆様